



て時間を稼ぐ。30分程歩いた頃、砂防ダムを越えた所で、ようやく林道は終点となった。

さてこれからは何か出てくるだろうと、気を取り直して進む。すぐ木製の簡単な土砂の流出防止柵が出てきた。そしてその脇には、高さ3m程のコンクリート製の土台がある。あたりは、人工的に整地されたようにも見える。材木か鉾石か、とにかく何かの集積地があったところのようである。

ここをすぎると、まもなく3mの小滝、そしてすぐまた2mの小滝が出てくる。いずれも簡単に越すが、これは沢の様相が変わる前触れではないかと期待をもたせる。しかし、これまた見事にハズレ。沢は平凡なままに日輪寺に向かう遊歩道出合を過ぎ、源頭になってしまった。水の流れも途絶えた所で、左手の山腹にある登山道に上がる。山体深く浸食の進んだ沢であったが、沢そのものは平凡であった。

【タイム】 マナイタ沢出合(4:35)→林道終点(5:05)→日輪寺遊歩道出合(5:35)→沢終了(6:00)

小寺崎沢 1986年5月25日

日輪寺遊歩道分岐点から、まずは820m独標をめざす。途中まで踏跡があるので、それを利用し、あとはやぶこぎとなる。しかし、そうたいしたヤブでもなく、5分程で山頂着。何の特徴もないピークで、展望もきかない。

6:25、820m独標より小寺崎沢へ向けて下降開始。あまり手入れのよくない杉林の急斜面を5分程下ると、沢の形態をとりはじめ、更に15分程で水が出てくる。しかし、沢は平凡。

やがてスギの美林の中に入る。するとワサビ田が出てきた。コンクリートのワクの中いっぱいワサビが茂っていた。

